独立行政法人　地域医療機能推進機構
福岡ゆたか中央病院

2019年度版
看護師募集案内

患者様に寄り添う
看護をめざして

独立行政法人　地域医療機能推進機構
福岡ゆたか中央病院

# 福岡ゆたか中央病院の理念

**理想的な地域包括ケアを実現することで、病む人と職員が幸せになり、地域社会が健やかに栄える病院を目指します。**



# 福岡ゆたか中央病院 沿革

昭和２３年５月
健康保険厚生荘病院として発足：厚生省（社会保険庁）が買い上げ、社団法人全国社会保険協会連合会（全社連）へ運営を委託。

昭和３７年３月
195 床（一般 49 床、結核 146 床）に増床し新築。

昭和４７年３月
健康保険直方中央病院に名称変更。

昭和５２年９月
一般 132 床、結核 63 床に病床変更。

平成１６年５月
病院新築移転・診療開始。

平成１７年８月
日本医療機能評価機構　病院機能評価 Ver4.0 認定。

平成２０年１０月
社会保険庁より独立行政法人 年金・健康保険福祉施設整理機構（RFO）へ管轄変更。独 シーメンス社製１２８スライス CT を西日本の大学・大病院に先駆け導入。

平成２２年
入院基本料 7：1 取得と DPC 対象病院になり、日本医療機能評価機構 病院機能評価 Ver6.0 認定。外来化学療法室を開設。

平成２４年９月
九州第１号の独シーメンス社製、第２世代３テスラ MRI Skyra（スカイラ）を導入。

平成２６年４月
法律改正に伴い、独立行政法人 地域医療機能推進機構へ移行。JCHO（ジェイコー）福岡ゆたか中央病院へ名称変更。

平成２８年９月
５階病棟が内科急性期病棟より地域包括ケア病棟に変更。変更に伴い、５階病床数を３７床から２８床に。

平成２９年１１月
１６２床（一般１３２床、結核３０床）に病床変更。

# 看護課理念

地域の人々と
患者さんの
視点に
立った
「安全で
安心な
良質な看護」を
提供し
看護によって
選ばれる病院を
目指します。

## 基本方針

1．急性期・高度医療に対応できる質の高い看護を提供します。
2．看護倫理を踏まえた患者中心の看護を実践します。
3．患者さんに信頼される丁寧で温かいケアを提供します。
4．他部門と協働し、患者を中心とするチーム医療を推進します。
5．働きがいがあり、学習向上できる組織風土をつくります。

## スローガン

目くばり、気くばり、心くばりで、先取りの看護

# NURSE MIND 総看護師長からメッセージ

当院の看護が目指しているのは、地域の人々と患者さんの視点に立った安全で安心な良質の看護を提供し、看護によって選ばれる病院になることです。そのために患者さんの思いを理解して「目くばり・気くばり・心くばり」を行ない、丁寧であたたかいケアを提供していこうとスタッフ一同努めています。看護で選ばれる病院になるためには、看護師の資質の向上が欠かせません。そこで当院では年間教育プログラムに則った集合教育と部署内教育に加え「ｅーラーニング教育システム」も活用しています。また２０１０年度から新卒看護師卒後臨床研修も導入し、人材育成に力を入れています。

当院は１６２床と大きな病院ではありませんが、大規模病院にはないアットホームな雰囲気があり、人間関係もよく、後輩指導に熱心です。今後も大規模病院にない良さを打ち出して、魅力ある看護課にしていきたいと考えています。

総看護師長 福嶋 ひろみ
Hiromi Fukushima

# NURSE MIND 看護体制

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 一般病棟 | 地域包括ケア病棟 | 結核病棟 |
| 入院基本料 | ７：１ | １３：１ | ７：１ |
| 看護補助換算 | 急性期 ２５：１ | ５０：１ | ― |
| 看護職員数 | １９２名（看護補助者１９名を含む）※２０１８年１月１日現在 | | |
| 看護方式 | 固定チームナーシング継続受け持ち制 | | |
| 看護体制 | ３交替 | | |
| | ３階病棟 | ４階病棟 | ５階・６階病棟 |
| | ３人準夜・３人深夜勤務 | ４人準夜・３人深夜勤務 | ２人準夜・２人深夜勤務 |
| 看護単位数 | 病棟（手術室・中央材料室含む） | 外来（健康管理センター含む） | |
| | 4 | 1 | |

## ３交替をのぞいてみましょう♪

### ① 日勤の流れ

楽しいランチの時間♪♪

| 8：15 | 9：00 | 9：30～11：00 | 11：00 | 12：00～13：15 | 14：0 | 0～16：00 | 16：00～17：00 | 17：00 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ミーティング・申し送り | 指導者と本日の業務確認<br>環境整備・点滴整備・清拭 | 回診介助・検温・点滴施行 | カルテ記載 | 食事介助・ランチタイム | 検温・検査 | 介助・カルテ記載 | 申し送り・処置伝票チェック<br>翌日退院患者書類セット | 勤務終了 |

### ② 準夜勤の流れ

| 16：00 | 16：20 | 16：40 | 17：00 | 18：0 | 0 | 19：00～21：00 | 21：00～23：00 | 0：15～0：45 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 翌日の検査チェック<br>処置伝票チェック | 申し送り | 点滴チェック | 重症者検温・カルテ記載 | 配膳・食事介助・ | 時間注射投与 | 重症者、有熱者検温<br>処置、イブニングケア<br>休憩（夕食） | カルテ記載・病棟巡視<br>時間処置（内服・共通） | 申し送り・勤務終了 |

### ③ 深夜勤の流れ

| 0：00 | 1：00 | 2：0 | 0 | 3：00～4：00 | 4：00～5：00 | 6：00～7：00 | 8：15 | 8：45 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 申し送り・輸液チェック<br>検査チェック・絶食者確認 | 重症者検温・病棟巡視<br>時間注射投与 | カルテ<br>回診車 | 記載<br>の点検 | 病棟巡視・カルテ記載<br>時間処置 | 休憩・処置伝票見直し | 検温・カルテ記載<br>モーニングケア | ミーティング・申し送り | 勤務終了 |

# NURSE MIND 教育システム

## JCHO 教育理念

看護職者としての自律と成長をめざして学び続ける。

## JCHO 教育目的

1．地域医療で重視される疾病や医療・介護・福祉を繋げる視点を育てる継続的な学習、病院内だけでなく地域においても活用できる、看護実践方法の習得を支援することにより、地域住民の多様ニーズに応える安全・安心な看護を提供できる人材を育成する。

2．専門職・医療チームの一員としての責任・使命感を持ち、興味を持つ分野・領域において、主体的に学習や組織改革に参画できる人材を育成する。

## JCHO 教育目標

1．日常の看護（業務・実践）に役立つ学習活動に参加することができる。

2．問題解決能力・判断力を身につけ、個人や集団のニーズを理解して、患者とその家族・地域住民及びチームの問題解決のために、具体的行動がとれる。

3．チームの一員としての役割を認識して成果を出し、患者とその家族及び組織から信頼・信用を得ることができる。

**クリニカルラダー　とは**

はしご（ラダー）をのぼるようにしていくシステムのこと。
５段階に設定されている。
具体的目標レベルが設定さうに１つずつ、段階的に臨床における看護実践能力を教育指導看護師の臨床業務・能力に応じて、レベルⅠからレベルⅤまで看護師それぞれの成長を促すために、経験年数ごとに期待されている。

**クリニカルラダー　の目的**

1．個々の看護師の臨床実践能力を適切に評価し、個人が主体的に成長するための動機づけとする。
2．人材育成（キャリア開発）の視点に立った現任教育を実践するために個人の教育ニーズを把握する。

マネージメントラダー
ジェネラリスト
スペシャリスト

| | | 経験の目安 |
|---|---|---|
| レベルⅤ | 目標<br>○病院組織の目標達成に向け、自己目標を連動させ組織変革を推進できる。<br>○専門領域における卓越した看護を提供でき、指導者を育成できる。 | 7年以上 |
| レベルⅣ | 目標<br>○専門的な知識・技術を活用し、卓越した看護を提供できる。<br>○複雑な状況を適切に判断し、自ら適切な行動をとることができ、つ組織横断的に指導か的役割をとることができる。<br>○専門分野に関しての知識を深めて、スタッフを指導できる。 | 5年～7年 |
| レベルⅢ | 目標<br>○部署の目標達成に向けて、自己目標をチーム目標に連動させ、目標達成に取り組める。<br>○チームの役割を果たし、チーム内で発生した問題を解決できる。<br>○自己のキャリアを展望し、専門領域に関する学習に取り組める。 | 4年～5年 |
| レベルⅡ | 目標<br>○チームの目標達成に向け、自己目標をチーム目標に連動達成させ、目標達成に取り組める。<br>○所属部署の特殊性を理解し、ルーチン業務を単独で実施できる。<br>○チームにおける日々のリーダー的役割を認識し協力を得て遂行できる。<br>○自己の課題を認識し、自主的に学習できる。 | 2年～3年 |
| レベルⅠ | 目標<br>○病院の理念を理解し、組織の一員としてアドバイスを受けて、行動できる。<br>○正確な知識・技術を習得し、マニュアルにそってアドバイスを受けて、安全に看護が提供できる。<br>○チームメンバーにおけるメンバーの役割を理解し、アドバイスを受けて協同できる。<br>○事故の課題を認識し、アドバイスを受けて学習できる。 | 新人1年 |

## 教育担当者の紹介

リアリティーショックを最小限に職場環境になれることができるよう新人看護師をサポートする体制をとり、全員で育てる姿勢を大切にしています。教育の主体は、病棟で行なうＯＪＴ（現場研修）です。私たちは、病院の理念に基づき、心と心の触れ合いを大切にし患者さんの立場に立って行動できる看護師の育成に努めています。１人１人が考えて行動できる患者さんに寄り添った看護が提供できるよう一緒に頑張りましょう。

看護師長　帆足 満江
医療安全管理室　１９９０年入職

当院の看護師教育体制はクリニカルラダーを取り入れています。
新人は第１段階を集合研修やｅ-ラーニングで学び、現場では実践指導者や教育担当者、チューターと共に１年かけて、ゆっくり教育する体制があります。新人看護師のみんなが活き活きと楽しく働いて、１人前の看護師として独り立ちできるように、しっかりサポートしたいと思います。一緒に頑張りましょう。

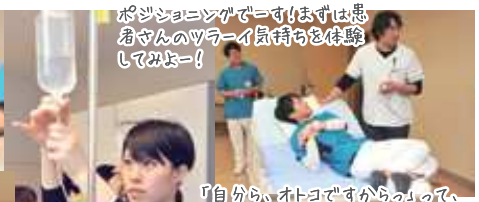
看護師長　西岡 和美
外来　１９９１年入職

私たちは教育担当者として、どのような看護を行なえば患者さんに喜びを与えることが出来るのかを常に考えながら、教育・指導を行なっています。
そのためにも知識・技術も大切ですが、いつも笑顔を忘れず楽しい職場の中で看護が行なえるよう心がけています。学ぶ側・指導者側がお互い理解し合い、患者さんに良質な看護が提供できるよう、一緒に頑張っていきましょう！！

副看護師長　池田 真美
６階病棟　１９９１年入職

# NURSE MIND 研修（院内研修・野外研修）

入職時のオリエンテーションでは、採血や注射の練習…絵画セラピーや
KYT（危険予知トレーニング）研修も。そして野外研修も充実です♪



# NURSE MIND 年間教育プログラム

NURSE MIND

# 教育・サポートについて

## 副総看護師長からメッセージ

看護は人間の生命や生活に深くかかわる職業であり、生涯にわたり自己研鑽が求められます。卒後臨床研修体制も整い、看護部だけでなく組織全体で協力し、１年の期間をかけて、「ゆっくり、あせらず、確実に」をモットーに教育をすすめています。根拠に基づいた知識・技術の習得は勿論のこと、患者さんの立場にたち看護が提供できる看護師の育成を目指し、新人看護師へは、患者さんとの関わりの中で、看護のすばらしさや魅力が感じとれるような教育を行なっていきたいと考えています。

副総看護師長　都田 まゆみ
Mayumi　Tsuda

支えてくれる先輩たちとたくさんの教材が、とっても心づよいんです♪

### チューター

あなたといつも一緒。

１年間を通して、マンツーマンでペアを組んで支えてくれます。

### 実施担当者

「助け」、「教え」てくれる。

経験５年以上のベテラン看護師が、直接、技術指導してくれます。

### 研修教材

研修で使用する注射モデル、気管・口腔・胃瘻の吸引モデルに加え、看護スキルアップのための教材が充実です！！

▶ 注射やマナー、危険予知訓練などの DVD 教材

▶ 吸引モデルや注射モデルの腕自慢などの教材も♪



手いっぱいの時、心細くなった時、一緒にいてくれるやさしい気遣いやサポートが嬉しい。

## メンタルサポートも充実

新人時代は慣れない環境での、はじめての経験ばかりで時には不安になることもあるでしょう。そんな時、心の支えになってくれるのがチューターです。看護課では新人ひとりひとりに、チューターが１年間を通してマンツーマンでペアを組んでいます。１年間を通してペアを組むため、相談しやすい心強いお姉さんがいつも傍で見守ってくれます。また、チューター以外の先輩や上司にも気軽に相談できる環境が整っており、看護課全体でサポートします。
また当院では「産業カウンセラー」を配置しており、メンタルケアの更なる充実を図っています。

NURSE MIND

# 部署の紹介

## 外　来

１５の診療科があり、医師３０名体制で日々の診療にあたっています。１日に約２５０名の患者さんが来院され、コンシェルジュをはじめ、３３名のスタッフで診療補助、検査介助、療養指導を実施しています。１階フロアにそれぞれの診療科と５階に外来化学療法室があります。眼科では入院下での白内障の手術に力を入れ、年間約４５０件の手術を行なっています。外来化学療法室では癒しの環境を整え、月平均１００件以上の治療を行なっています。内視鏡室では胃・大腸検査を日に２０例以上実施し、その他にも様々な検査や治療を行なっています。
外来ではそれぞれの特徴を活かしながら、ローテーション研修などで来られる皆さんにも温かく指導していきたいと思っています。

## ４階病棟

内科急性期の病棟です。病床数は５７床で７対１看護体制で日々の看護を行なっています。循環器、呼吸器、消化器、膠原病などの患者さんが入院されており、幅広い知識と技術が必要となります。そのため看護スタッフは各科の経験豊富な看護師で構成されています。
急性期のため緊急入院も多い病棟です。心身ともに不安定な状態にある患者さんへ迅速な対応と、患者さんやご家族の方の視点に立った看護ー“先取り看護”ー提供を行ない、「この病院に入院して良かったなぁ」と言って頂ける病棟を目指し、これからも日々努力していきます。

## ３階病棟

４７床ある３階は「外科系急性期病棟」で、主に手術を目的とした患者さんが入院されます。２０代を中心とした若いスタッフが揃う、活気のある明るい病棟です。
特徴的なのは、手術室を併設していることです。スタッフは術前・術中・術後を通して患者さんに関わることができ、幅広く学べます。術前から関わる看護師が手術室にいることで「安心した」「緊張していたけど、ホッとした」と、患者さんから高い評価を得ています。
スタッフの向学心も旺盛で、院内・院外研修参加も高い病棟です。病棟の看護の方針である「患者様の立場に立った、安心・安全・良質の看護」をひとりひとりが実践し、看護によって選ばれる病棟を目指して、スタッフ全員で頑張っています。

## ５階病棟

２０１６年９月に内科急性期より“地域包括ケア病棟”へ移行しました。
入院される患者さんは急性期の治療を終えて退院を目指したリハビリの必要な方が中心で、糖尿病の教育入院なども行なっています。
包括ケア病棟は退院後の日常生活にも支障がないように、他職種との連携・協働を密にしながら、継続的な看護を行なうことが求められます。
そのため退院後の訪問看護なども積極的に行ない、看護のケアの質向上に努め日々、活動しています。

# NURSE MIND 部署の紹介

## ６階病棟

福岡県内に６ヶ所ある結核病棟の１つです。結核はほぼ撲滅した印象がありますが、県内では現在でも毎年１０００人程の新規登録の患者さんがおられます。病棟の特徴上、長期化する入院生活を患者さんがストレス少なく療養生活を送って頂けるように、きめ細やかな看護を行なっています。担当看護師が入院から退院まで患者さん、ひとりひとりに応じたオンリーワンの看護を目指しています。また入院中から地域の保健所と連携して、ＤＯＴＳ（内服支援）会議を行なって、患者さんが退院した後の生活支援に繋げています。加えて、季節ごとのイベントを企画して患者さんが楽しんで過ごして頂けるような工夫も行なっています。
「目くばり・気くばり・心くばり」のスローガンのもと、スタッフ全員で笑顔で安心感のある医療や看護の提供に努力しています。

## 師長さんたち

# NURSE MIND 先輩看護師のメッセージ

私は看護師として「心のケアができる人になりたい」と思っていたため、患者さんのもとを訪ねるたびにコミュニケーションを取ることを心掛けています。しかし、そのためか、ある患者さんに「あなたは優しいけれど、来るのが遅い！」と怒らせてしまったことがあります。いつもよく話をして下さる患者さんだったので、信頼を裏切ってしまったと思うと凄くショックでした。看護行為もすべて断られ、どうしたら良いのか分からず落ち込みました。看護師長や先輩方は「タイミングが悪かっただけだから気にしなくて大丈夫よ」と励ましてくれたり、患者さんに「まだ新人だから不足している部分はたくさんあるけれど、一生懸命考えて動いているから、分かってあげて欲しい」話をして下さいました。同期は私が泣いていると走ってきて、「大丈夫？何があったの？」とたくさん心配の言葉をかけてくれました。自分の仕事で精一杯なはずなのに、私のところに走ってきてくれた姿は忘れられません。こうした励ましもあり、患者さんとは和解することができました。患者さんは「あなたが１番好きだったから来てくれないことが寂しかった。でも、いつも人１倍心配してくれるよ。ごめんね、これからもよろしくね。」という言葉を頂いて患者さんと一緒に涙を流してしまったことが何より大切な思い出です。
その後、患者さんとは気まずくなることもなく、来院された際には私の名前を呼んで下さったり、「私の大好きな看護師さんよ♪」とご家族やご友人に紹介して下さったこともあります。和解できたことも嬉しく思いましたが、私の名前を覚えて下さったことや親しく感じて頂けていることは本当に喜びです。
看護師という仕事は、体力的にも精神的にもツラく感じることがあります。それでも「看護師」を辞めたいと思えないのは、人の温かさを知り感じることができたからかな、と思います。患者さんや看護師長、先輩たちの一言一言が毎日の仕事の「ご褒美」で、また明日も頑張ろう！という気持ちになります。
必要なものは、笑顔と元気！とても楽しい病棟です。良いと思っても結果的に失敗となることもあります。でも心強い仲間がいます。皆さんもその一員になって一緒に頑張れることを楽しみに待っています！

看護師 國廣 志帆
健康管理センター　２０１５年入職
近畿大学附属福岡高等学校 卒

NURSE MIND

# 先輩看護師のメッセージ

## これから看護師として働くあなたへ 先輩看護師からのメッセージ

看護専門職者として初めて“現場”で働くことは、学生時代に想像していた以上に違うことがたくさんあって悩むことも多くなると思います。先輩としてではなく一緒に成長するための仲間として一緒に悩んで、解決できたらいいなと思います。

**松尾 玲菜**
2017年入職
福岡県立大学 卒

初めは分からないことばかりで緊張すると思いますが、先輩方が1つ1つ丁寧に教えてくださるので安心して働ける職場です！一緒に頑張りましょう！

**岩本 祐女**
2017年入職
宗像看護専門学校 卒

**天野 美穂**
2016年入職
折尾愛真高等学校 卒

結核病棟に勤務しています。近隣でも珍しい病棟ですが、先輩たちが優しく分からないことをを教えてくれます！患者さんやご家族の方に行き届いた看護ができるように心がけています。

**森 遥香**
2017年入職
福岡県立大学 卒

これから働いていく中で、ツラいこともあるかもしれませんが、努力は必ず実を結びます！1人で抱え込まずに、同期と支え合い、先輩たちに相談しながら頑張っていきましょう！

**守田 文**
2004年入職
九州医療センター
附属看護専門学校 卒

つらいこともあるかもしれませんが、先輩に相談したり、同期と発散しながら…乗り越えて頑張って下さい。

**折尾愛真高等学校 卒**
看護師 三浦 琴乃
4階病棟 2017年入職

1年目の頃は不安や緊張も多く、1日の業務を遂行することに必死でした。時には失敗もし、落ち込むこともありました。今振り返ると、その時の失敗が業務を行っていく上で注意していかなければならない大切なポイントとして心に残っています。
失敗したその時はとてもツラいですが、そういった日々の積み重ねが自分自身の成長に繋がるのだと気づくことも出来ました。自分自身が新人だった頃に感じた気持ちを忘れずに、新人さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

**小倉南 看護専門学校 卒**
看護師 梶村 侑加
5階病棟 2014年入職

誰でも最初は不安を感じます。看護学校と比べると、実践で必要とする知識や技術の求められるものは高く、できるだろうかと心配になったり落ち込んだりしました。当院で初めての処置を見学から実践までの根拠、注意点まで、1つずつ丁寧に指導していただきました。今も心配事はありますが、先輩方と一緒に1つ1つ解決しながら、患者さんの気持ちに添った看護ができるようが日々頑張っています！

**宇部フロンティア大学 卒**
看護師 重冨 裕太
3階病棟 2012年入職

入ったときは不安でいっぱいでした。楽しい時も落ち込むような時もありました。チューターさんが新人ひとりひとりに付いてくれることは心強かったです。いつも傍で励ましてくれ、心のサポートを行なってくれたので、今でも楽しく仕事をしています。先輩方は、とても優しく病棟内の雰囲気も良いです。今は、チューターの立場として新人さんたちと接してます。まだまだ未熟ですが、一緒に成長しながら楽しく仕事をしていきましょう。

NURSE MIND

# 先輩看護師のメッセージ

先輩たちも頑張ってきたんだよ。
誰だって最初は不安だよね？
どうやって乗り越えてきたのかなぁ？？

入職当初は何も分からず、看護師として働いていくことに不安を抱えていました。チューターをはじめとした先輩看護師が基礎から優しく教えてくださって、常に気にかけてもらえる環境があったので、その不安も少しずつ消えていきました。現在は夜勤も独り立ちし、先輩方にフォローしてもらいながらリーダー業務にも入り始めました。「出来ること・すべきこと」が多くなるほどに看護の難しさも感じる毎日ですが、患者さんの「ありがとう」の言葉に活力をもらいながら、少しずつでも成長できるように頑張っています。病棟では糖尿病の教育入院が行われています。患者さんから質問や相談を受け、病態やライフスタイルに適した答えを返す先輩方の姿は、とても勉強になります。自分自身を省みると、まだまだ知識が足りず患者さんにすぐに答えを返せず、もどかしい思いをすることもあります。今後は、今以上に励み、もっともっと患者さんの力になることが出来るように努めたいと思います。今後は先輩看護師として、新人さんたちを支える側です。私がしてもらってきたように、新人さんたちの力に少しでもなれたらと思っています。時には一緒になって悩みながら、共に成長できたら良いなと思います。皆さんの入職をお待ちしてます。

看護師 中野 千春
5階病棟　2013年入職
福岡県立大学 卒

分からないことばかりで不安な時期もありましたが、今はそれが当たり前のことだと分かります。「新人はできなくて当たり前。だから今のうちに分からない事は何でも聞いて、先輩の良い部分をいっぱい吸収してね。先輩たちも、新人の時は分からないことばかりだったんだから。」という、一緒に働く先輩たちの言葉のおかげで不安を和らげることができました。
学生時代に実習などで様々なことを学びましたが、就職してから学ぶことばかりです。でも楽しく学べています！この病院ならではの、あたたかい環境だからです。同期と得た情報を共有していると、仲間として成長していくことができます。疲れることもありますが、休みの日は同期と一緒に出かけて遊んで、仕事以外のことで盛り上がって息抜きして、また新たな気持ちで仕事に打ち込むことができています。今、同期や先輩たちと１つの“チーム”として笑顔で頑張っています。私もまだまだ未熟ですが、皆さんと共に看護師として、成長していけることを楽しみにしています！

看護師 黒木 淳史
3階病棟　2017年入職
宮崎県立看護大学 卒

日々の業務についていくことや覚えることに必死で、時間内に終わらなかったり、患者さんを待たせてしまったり…と失敗ばかり繰り返し、落ち込むことがたくさんありました。
いつも１番に気づいて元気づけてくれたのは先輩や同期たちでした。大変な業務の中でも先輩や同期たちからの励ましの言葉に支えられ、今も頑張ることができています。
ある時、患者さんとの関わる中で失敗が続き、落ち込んで自信をなくしていました。そんな私の様子を見た患者さんから「誰でも完璧な人はいないし、時が経てば自然に身につくものよ。人間は経験が必要な生き物よ。あなたの笑顔は１番ステキだわ。一緒に頑張りましょう。」と温かい言葉をかけて頂きました。明るい希望が持て“頑張っていこう！”という前向きな気持ちになりました。看護師として患者さんのために働き“元気になって欲しい”と思い看護していますが、むしろ反対に患者さんから励まされた経験です。これからも失敗や落胆を繰り返すかもしれませんが、この貴重な経験を忘れずに頑張っていこうと思っています。

看護師 山松 由佳
3階病棟　2016年入職
折尾愛真高等学校 卒

入職当初は、不安の塊で落ち込むことがたくさんありました。その度に支えてくれたのは、同期やチューター、先輩方でした。いつもいつも悩んでいる時は優しく声をかけ、分かりやすく教えて励まし勇気づけてくれました。
先輩方が、常に「新人である私たち」のことを考えてくれて、どうすることが新人にとって良いのか、私たちのために一生懸命考えてくれている姿を見た時「落ち込んでいる場合じゃないんだ！」と思えました。そして同じ立場・気持ちでいる同期とコミュニケーションをとることは「頑張ろう」という気持ちを強くさせました。
たくさんの支えを実感することで「早く覚えたい」「色々な知識を学びたい」と思い努力することが出来ました。先輩方が行なってくれたように、新人さんにとって何が１番良いのか、考えながら行なえるように…。そして、何より自分と同じ不安な思いで入職してくる新人さんたちの力に少しでもなれるよう、目標をもって頑張っていきたいと思います。

看護師 崎村 奈美
4階病棟　2013年入職
近畿大学附属福岡高等学校 卒

NURSE MIND

# 先輩看護師のメッセージ

## 入職して半年も経たない時に経験した病棟の移行。同期や先輩たちの支えが、自信に繋がりました。

私が勤務している病棟は、急性期から地域包括ケア病棟に移行しました。入職して半年も経たない内の移行ということもあり、分からないことばかりで不安な気持ちでいっぱいでした。業務内容の変化に合わせるために必要な勉強もありました。初めの内は新しいことばかりで大変なこともありましたが、いつも心配してくれる先輩や同期の存在、「一緒に乗り越えていこう」と周りから掛けられる前向きな言葉がとても心強かったです。
１番の不安は疾患や処置など内容が全く違い、今まで教わった技術や学習が活かせなくなることでした。しかし移行しても、学んだことや経験は無駄にならず、むしろ普段経験できない処置は他病棟へ行き、勉強・経験させてもらうことができました。所属する病棟以外でも“看護を学べる機会”を積極的に作ってもらえて、できた経験は自信に繋がりました。
それでも仕事で上手くいかず落ち込む時には、同期や先輩が「次は同じミスをしないことが大切だから一緒に頑張ろう」と励ましてくれます。先輩たちは、分からないことがあれば分かるまで一緒に調べてくれたり、とても優しく教えてくれます、感謝の気持ちでいっぱいになります。私もそんな先輩になりたいと思っています。ここには患者さんのために頑張っているスタッフばかりです。一緒に頑張りましょう！

看護師 宮島 果歩
5階病棟　２０１７年入職
小倉南看護専門学校 卒

## みんなが支えてくれる、一緒にがんばってくれる　ーここは、そんな職場でした。

入職当時、私は准看護師でした。ここで働きながら国家試験の勉強をしました。仕事では病棟に慣れることや覚えなくてはいけないことがたくさんあって、仕事と勉強の両立は大変でした。何回も受験を諦めようと思いましたが、先輩看護師や同期から励ましてもらったり、仕事の後や休みの時に勉強を教えてもらったり、問題を作ってくれたり、「大丈夫？」と声を掛けてくれました。仕事内容も考慮してもらい、たくさん周りに迷惑をかけましたが、みんなが応援してくれたので“諦めずに頑張ろう!”と思えました。国家試験に合格した時、みんなが自分のことのように喜び、泣いてくれました。私はこの病院に入職し、優しい先輩と同期に恵まれて本当に良かったなと思います。
新人の時は不安でいっぱいでしたが、ひとりひとりに指導者がつき、その人に合った指導をしてくれます。私は外科病棟に配属されています。病棟の看護師が手術室にも入っているため、手術前・中・後の勉強ができます。私も手術室に入るようになりました。覚えることがまだまだあります。“大変だ”と思うこともあります。それでも、これまでと同じように先輩看護師や先生が優しく教えてくれるので“頑張ろう！”という気持ちになります。
そしてチューターにもなりました。新人の皆さんの不安な気持ちを支え、一緒に頑張りたいと思います。

看護師 坂本 愛奈
3階病棟　２０１０年入職
近畿大学附属福岡高等学校 卒

NURSE MIND

# 医療安全管理室

当院では、２０１０年に１階フロアの一画に医療安全管理室が開設となり、リスクマネージャー（看護師）１名を配置しています。患者さんが安心して医療を受けることのできる環境づくり、未然にリスクを回避することを目的に医療安全対策を推進しています。医療安全委員会、管理者カンファレンスを定期的に開催し、インシデント・アクシデントレポート報告や重要事例について討議し、その結果を全職員に周知されるようにしています。また、看護師としてのリスクマネジメント能力や事故防止への意識を高め、リスク感性を養うための教育にも力を入れ取り組んでいます。

リスクマネージャー（医療安全管理室 看護師長）帆足 満江
Mitsue Hoashi

# キャリアアップ支援

看護職員一人ひとりが自分の目標を掲げ、働きながらキャリアップを図れるように応援します。
また資格取得についても全面的にサポートします。

## 臨床実習指導者研修

実習指導者研修は、看護教育における実習の意義および、実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるように必要な知識と技術を取得します。

## 研修施設

当院を含め、全国に５７病院を持つ JCHO グループは研修センターを持っています。
研修センターだけに止まらず、ＪＣＨＯ本部や地区事務所における研修にも力を入れています。グループ全体として看護師の質向上のために取り組んでいます。

## 認定看護師

専門領域の学びを深め、スペシャリストとして活躍できるよう、サポート制度を用意しています。日本看護協会指定の教育課程を半年間受講します。特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができ、看護実現における看護ケアの広がりと質の向上を図ります。

### 資格取得サポート制度

総看護師長　推薦
↓
出張　認定看護師教育過程
↓
日本看護協会認定審査（筆記試験）
↓
認定看護師認定証交付・登録
↓
５年ごとに更新審査

## 認定看護師の役割

認定看護師は、看護現場において「実践・相談・指導」の３つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりと質の向上を図ることに貢献する。

## 認定看護分野

認定看護分野とは、高度化および専門分化する保健、医療および福祉の現場において、熟練した看護技術および知識を必要とする看護分野として制度委員会が認めたものをいいます。現在、特定されている分野は、以下の２１分野です。

□救急看護
□皮膚・排泄ケア
□集中ケア
□緩和ケア
□がん化学療法看護
□がん性疼痛看護
□訪問看護
□感染管理
□糖尿病看護
□不妊症看護
□新生児集中ケア
□透析看護
□手術看護
□乳がん看護
□摂食・嚥下障害看護
□小児救急看護
□認知症看護
□脳卒中リハビリテーション看護
□がん放射線療法看護
□慢性呼吸器疾患看護
□慢性心不全看護

# 現在☆大活躍中の認定看護師の先輩です！

## 病院と仲間のスタッフの協力があったからこそ。

私が“糖尿病看護認定看護師”を目指そうと思ったきっかけは、糖尿病教育を行なっている内科病棟への異動でした。糖尿病の患者さんと関わる中で知識不足を痛感しまずは地域の糖尿病療養指導士の資格を取得しました。
しかし「患者さんは、どうして治療を守ることができないのだろう？」と指導の難しさを感じていた時に、上司の勧めもあって“糖尿病看護認定看護師”教育課程を受験し、志の高いクラスメイトと７ヵ月間、協力し合いながら勉強漬けの日々を送りました。多様化するライフスタイルに合わせた生活調整支援などを習得する中で、今までの関わり方が患者さんの生活背景よりも、病気にばかり目が向いていたことに気づかされました。
このような多くの学びを得ることができたのは、長期研修中の勤務調整など病院のサポート体制とスタッフの協力があったからこそ、認定看護師を取得することができたのだと感謝しています。
現在は、糖尿病専門医を中心に糖尿病療養指導士の資格を持った多職種スタッフ（薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士・看護師）の協力のもと、少しずつチーム医療としての形づくりを行なっています。今後は、チーム医療の架け橋としての役割が担えるように自己研鑽に励み、生涯糖尿病とともに生活する患者様が“自分らしく、健やかな人生を送れる”ためにセルフケアを共に考え、見守り、寄り添いながら一番身近な相談者として心の通った支援に努めていきたいと考えています。また同じ糖尿病看護認定看護師が１名、感染管理認定看護師が２名誕生しましたので、認定看護師の役割である実践・相談・指導を共に協力しながら看護の質向上に貢献できればと思っています。

副看護師長
［糖尿病看護 認定看護師］ 桑幡 まゆみ
５階病棟　１９９３年入職

# NURSE MIND 認定看護師

## 糖尿病認定看護師です！

◆ 目指したきっかけ
入退院を繰り返す糖尿病患者さんと関わる中で、どのように療養指導を行なえば継続した療養行動を行なう事ができるのか疑問を持ち、糖尿病看護に興味がわきました。糖尿病療養指導士として活動していましたが「このままの自分では、糖尿病を持ちながら生活する患者様への十分な支援ができないのではないか」と考え、認定看護師を目指しました。
◆ どんなサポートがあったか
認定看護師教育機関在学期中、病棟の看護師長はじめ先輩の認定看護師から精神的なフォローをしていただき、無事に卒業する事ができました。
◆ どういう勉強をするのか
食生活の欧米化、生活環境の変化を背景に糖尿病患者は増加の一途を辿り、さらに患者さんのライフスタイルは多様化しています。患者さんを糖尿病を持ちながら生活する人と捉え、合併症の進行予防を防ぐとともに、その人がその人らしく健康的な生活を維持・継続できるような援助方法を学びます。
◆ 試験について
筆記試験対策は、日本糖尿病療養指導士受験ガイドブックや糖尿病治療ガイドを中心に学習を行ないました。小論文対策は自分でテーマを決め６００字程度に自分の考えが記述できるように練習を行ないました。

副看護師長 古賀 美紀
3階病棟　２００９年入職
中部労災看護専門学校 卒

## 感染管理認定看護師です！

◆ 目指したきっかけ
院内感染委員として活動する中、看護師長より「感染管理認定看護師を目指しませんか？」と声をかけられ、その後看護研修センターで２週間の感染管理研修を受講し感染に関する興味が深まりました。当院では、高齢者や免疫の低下した患者さんが多い事、また結核病床を有する病院であり感染の危険性は高く、感染すると入院の延長、治療遅延など様々な障害が生じます。このような事がないように、院内の患者さんや職員、来訪者など全ての人を感染から守る必要性があり、感染に関する知識をさらに深め、迅速な対応ができるようになりたいという思いから目指す決意をしました。
◆ どういう勉強をするのか
学習内容は感染管理プログラムを構成する６つの項目（医療関連感染サーベイランス、感染防止技術、職業感染管理、感染管理指導、感染管理相談、ファシリティ・マネジメント）について、最新の知識と施設の状況に合った効果的な感染対策を実践するための技術を学びました。
◆ 試験について
感染管理認定看護師を目指すようになって、基礎学習として医療福祉環境アドバイザーや医療環境管理士などの資格を習得しながらステップアップし、院内感染管理者である上司によるアドバイスや総看護師長や副総看護師長による面接の練習など病院全体としての応援を受け、自信を持って受験することができました。

看護師 中山 佐代子
外来　２００９年入職
原看護専門学校 卒



# NURSE MIND 委員会活動

現在、福岡ゆたか中央病院では３０を超える委員会があります。部署をまたいだ横断的で重要なテーマや目標実現、提供する医療の質向上のため職員向けの講習会など、その活動内容は種々に及びます。

新人看護職員の一年間にわたる研修を全面的にバックアップするため、教育責任者が中心となり教育担当者と共に企画・運営はもちろんの事、精神面でのフォロー体制を整え、新人が安心して研修にのぞめるように、他方面からのサポートを考え活動を行なっています。

“NST” とは、Nutrition Support Team の略で栄養サポートチームを指します。NST は医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・言語聴覚士・医事課など、各部門のスタッフがそれぞれの知識や技術を出し合い、栄養管理が必要な患者さんに最良の方法で栄養支援するチームです。
“腹が減っては戦はできぬ” と言いますが、病と闘う事もまた同じ事で栄養管理の重要性が注目されるようになってきました。種々の化学療法を行なった患者さん、病気のため食事量が減った患者さんは栄養状態が悪くなり、栄養状態の悪化は回復遅延や感染症の発症など様々な弊害をもたらします。このような患者さんに適切な食事・点滴・内服薬などを提供するのが私たち NST です。早期の栄養支援により「なかなか治らない傷が治った」「感染症が減少した」などが報告されており、NST は様々な成果を上げています。私たち NST は患者さんの病気や怪我を治すために全力で支援していきます。
褥瘡とは、一般的には “床ずれ” と呼ばれるものです。一度できると治りにくくなる事もあるため、予防が大切です。
当院では多くの予防対策を病院全体で取り組んでいます。褥瘡委員は NST も兼務しています。全ての患者さんに対して入院時に皮膚状態・栄養状態など総合的に観察を行ない、褥瘡の予防・早期発見・対処に努めています。入院時全ての患者様に褥瘡発生のリスクを評価し、ハイリスクの患者さんには計画書を作成し、予防対策を実施します。２週に１度、委員による医師・看護師の回診を行ない適切な処置を行なうと共に、NST との連携により栄養面でのサポートを図ることで拡大・悪化の予防に努めています。近年、高齢の患者さんが多くなり、褥瘡保有者も増えてきています。そのため褥瘡の発生・悪化により、QOL の低下・ADL の低下による入院期間の延長など様々な問題が発生しています。
それらを少しでも軽減するために職員ひとりひとりが高い意識を持って日々の褥瘡対策に取り組んでいます。

医療機関において、医療安全は重要な取り組み課題の１つに位置づけられています。当院においても質の高い安全で安心な医療を提供することを目指し、医療安全対策委員会、医療安全管理室が連携して医療安全の推進に取り組んでいます。
副院長、看護師長をはじめ、多職種のメンバーによる医療安全対策委員会、各部署の医療安全責任者によるカンファレンス等を開催しており、部門や職種の壁を越え、当院の医療安全上の課題をともに解決するチームとして協働しています。
活動内容としては、医療事故防止策の推進、医療安全マニュアルの周知および定期的な見直し、医療安全に関する情報の発信、院内ラウンド、医療安全の啓蒙活動を行なっています。
医療安全教育においてもトピックスな内容、職種を超えたグループワーク等さまざまな研修スタイルを取り入れ、院内全体の安全に対する意識向上を目指しています。

各部署より委員が選出され毎月１回委員会を開催しています。年間目標を掲げ、入院患者アンケート結果や退院患者アンケートなどの収集結果を基に情報共有を行ない、改善点を話し合って、当院を利用される皆さんがより満足していただけるように “おもてなし” の心を大切に活動しています。中でも、入院患者アンケートは毎月行なっており、９５点を目標に各部署がいろいろな工夫をして患者満足度の向上に努めています。
また、職員間では医療人としてふさわしい身だしなみを整えるために、各部署間で身だしなみラウンドを行なっています。毎月交代で接遇標語を作成し、掲示、唱和しており、磨き抜かれた５K活動を実践するために、日々職員一同協力しています。

当院では労働安全衛生法に基づき“労働安全衛生委員会”を設置しています。職場における職員（労働者）の安全（労働災害防止）と健康を確保すると共に、快適な職場環境の形成を推進するため、委員会を開催し院内のラウンドを行なって環境改善等を実施しています。また職員のみならず、患者さんの安全や環境改善についても委員会として取り組んでいます。

NURSE MIND

# 先輩パパ・ママナース

はじめての子育てって不安だよね。
仕事と両立って簡単に言うけど、
本当にできるのかなぁ？
先輩パパとママはどうだったのかな？

出産後子供が１歳となり、１時間時短の勤務体制で復帰することになりました。昼間は母に預け、家族のサポートを受けながらの復帰でした。出産前と同じ外科病棟への復帰でしたが、スタッフの顔ぶれや業務・システム等の変更に戸惑うこともありました。１年と少しのブランクを不安に思うこともありましたが、看護師長を中心にスタッフが声をかけたり、業務もサポートをしてくれるので、働きやすい環境です。
家に帰ると子供が笑顔で出迎えてくれ、疲れも癒されます。初めての育児と仕事の両立に不安はありましたが、家族の協力もあり、慌しいながらも充実した毎日を送っています。

看護師　三原 理恵
３階病棟　２００６年入職
八幡医師会看護専門学院 卒

産前産後休暇と育児休暇を経て、職場復帰しました。“仕事と初めての育児”と両立ができるか不安でいっぱいでした。
子供が小さい時は、できるだけ一緒に過ごしたいと思っていました。上司に相談し、復帰の際に時短を取得することにしました。
いざ復帰してみると子供が体調を崩し、仕事を早退したり休んだりと、スタッフに迷惑をかけることもあり、続けていけるか不安に思うこともあります。それでも上司やスタッフのあたたかい言葉や助けで、楽しく仕事を続けています。
周囲の人の助けと時短制度のおかげで、上手にバランスを取りながら仕事と子育ての両立ができていると感じています。

看護師　山本 恵
外来　２００４年入職
近畿大学附属福岡高等学校 卒

私は年子で子供を出産したので、ほとんど復帰しないまま産前産後休暇と育児休暇を２回得ることになりました。約２年後に職場に復帰しました。復帰前と同じ外科病棟への配属でしたが“２年”というブランクもあり、病棟のシステムなど戸惑うことがありました。
師長をはじめ、スタッフが温かく迎えてくれたので救われる思いでした。主に勤務している手術室では、新しい機械の導入など変化が著しい場所なので、不安はあります。それでも師長やスタッフみんなの協力のおかげで、学びながら不安を拭いつつ勤務することができます。
子供を保育園に迎えに行くと「ママー！」と駆け寄って来てくれます。子供の笑顔に癒されながら、毎日仕事と育児と頑張っています。

看護師　實松 友賀
３階病棟　２００４年入職
近畿大学付属福岡高等学校 卒

思いがけない妊娠と出産のために、入職６ヶ月間の臨床経験しかありませんでした。産休・育休が明けて職場復帰することは、かなりの不安でした。そんな私に師長やスタッフみんなが業務をサポートしてくれて、すぐに仕事に慣れることができました。すごく感謝しています。現在は外科病棟と手術室で勤務しています。家事や育児をしながら、特殊な知識や技術が必要とされる手術室での勤務は中でも不安でしたが、医師や先輩スタッフが優しく分かりやすく教えてくれるので、今では楽しく仕事しています。
子供の急な発熱などで仕事を休んだり、早退したりと迷惑をかけてしまうこともありますが、業務を調整してもらうなど周りの温かいサポートを受けながら仕事と育児の両立を頑張っています。

看護師　井上 千穂
３階病棟　２０１４年入職
近畿大学付属福岡高等学校 卒

NURSE MIND

# 看護師インターンシップ

就職活動を行なっている皆様を対象に職場体験学習を行なっています。

## 目的

1. 福岡ゆたか中央病院の特徴や職場環境を知ることができます。
2. 先輩看護師との交流を通じ、看護実践の体験ができます。
3. 働く姿をイメージすることができます。

| | |
|---|---|
| 対　　象 | 福岡ゆたか中央病院への就職もしくは興味のある学生の方<br>（次年度卒業見込みの方に限らず、どなたでも参加可能です。） |
| 実施期間 | ● 随時開催 ●<br>１０：００～１６：３０<br>※病院の都合により、月曜日および土日祝はご遠慮頂いています。 |
| 実施場所 | 外科系病棟、内科系病棟 |
| 実施内容 | 実施場所において看護師の業務内容の見学 |
| 応募方法 | まずはお電話にて、下記へご連絡ください。<br><br>独立行政法人　地域医療機能推進機構<br>**福岡ゆたか中央病院**<br>**副総看護師長　都田　宛**<br>**０９４９－２６－２３１１**（代表）<br>お電話の際に、気になることや見たいところをぜひお伝えください！ |
| 応募締切 | 希望する実施日の１週間前の１７時まで |
| 参加決定 | 参加が決定しましたら、当院からご連絡します。<br>※先着順となります。 |
| 持参物品 | ■　実習ユニフォーム及びナースシューズ<br>■　学生証<br>■　在学校の名札<br>■　印鑑<br>※既卒者の方の白衣は当院で準備します。靴は白の運動靴を持参ください。 |

お問い合わせ先
０９４９－２６－２３１１（代表）　副総看護師長　都田まで

## 病院と働く先輩たちを よく知ることが出来ました！

福岡ゆたか中央病院での実習の際に、大腿骨頚部骨折と重度の認知症を患った患者さんを受け持ったことがあります。
その時の指導者さんからは「患者さんに、あなたのことを覚えてもらうことは難しい」と言われていました。
手術の前には患部の痛みが激しかったので、ケアの際に「痛い、助けて」と何度も言われました。患者さんのお部屋に頻繁に伺い、少しでも痛みが減るようにケアを行なうように努力しました。手術にも付き添わせていただいて、術後の看護もさせていただきました。アドバイスを受けながら、さまざまな看護を行なう中で、いつも患者さんのことを第一に考えて努力しました。
実習最終日に、その患者さんに「風吹ちゃん、風吹ちゃん」と何度も呼んでもらえたことは本当に深い喜びでした。
実習では、信頼や思いやる心の大切さを学びました。
実習を行なっていると、自分自身の知識不足を痛感しました。そんな中、指導者さんをはじめ、看護師長さん、たくさんの先輩看護師さんたちが優しく声をかけてくださって、たくさんのことを教えていただきました。
私は恵まれていることに、当院のすべての病棟で実習を行なうことが出来ました。どの病棟でも、それぞれの良い雰囲気があり、スタッフ間の仲の良い人間関係、コミュニケーションが確立されているのを見て、当院への良い印象を強く持ちました。
実習で関わった病棟のスタッフの方を中心に、他職種のスタッフの方々を覚えていること、また覚えてもらえたこと、病棟の雰囲気や流れを知ることが出来ていたことなどの強みを活かして、当院にぜひ就職したいと考えるようになりました。

看護師　髙松 風吹
４階病棟　２０１７年入職
大和青藍高等学校 卒

NURSE MIND

# インターンシップ経験

福岡ゆたか中央病院で実際にインターンシップや見学、実習を経験した職員の感想を聞いてみましょう！

高校２年生の時、初めて病院実習に行ったのが福岡ゆたか中央病院でした。私は学生グループのリーダーになり、初めての実習とリーダーという大きな不安や緊張でいっぱいでした。そんな時「分からないことはない？」「心配なことはない？」と看護師さんたちが優しく声をかけてくれました。自分の思うようにいかなくて悔しい思いを何度もして、患者さんの前ですら笑顔になれない時期もありました。こんな時も冗談交じりの会話で和ませてもらい、笑顔になれたのを覚えています。病棟スタッフの方々の優しさと暖かい病院の雰囲気に魅了され、私もここで働きたい！と強く感じました。

看護師 上和田 雅代
４階病棟　２０１４年入職
大和青藍高等学校 卒

インターンシップで緊張していた私に対して看護師の方々が笑顔で挨拶して「どこから来たの？」等いろいろ話しかけてもらい、優しくてあたたかい職員が多い病院だなと思いました。その際、患者さんの手浴のお手伝いをしました。笑顔で今から何をするのか世間話をしつつ、和やかな雰囲気で優しく丁寧に説明する看護師さんを見て、患者さんの気持ちに寄り添ったケアだと感じました。ナースステーション内で看護師さんたちが笑顔で明るく挨拶されているのを見て、病棟が明るくアットホームな感じが患者さんに伝わって話しかけやすそうな環境もいいなと感じました。
実際にインターンシップで来て、病棟の雰囲気の大切さを知りました。私もこういった所で働きたいと思いました。

看護師 河永 明子
３階病棟　２０１６年入職
宗像看護専門学校 卒

学校からの実習で福岡ゆたか中央病院に来ました。実習の際、指導者さん以外の看護師さんや他職種の方々に、熱心に優しく丁寧に指導や助言をしてもらったことが、とても印象に残っていました。患者さんとの接し方やコミュニケーションの取り方、退院指導用のパンフレットの作り方、退院指導の行ない方、実習レポートの書き方などで悩むことがありました。多忙な中、嫌な顔せず、優しく話を聞いて的確なアドバイスをしてもらいました。知識や技術の未熟な私たちに、１つ１つ丁寧に根拠や工夫すると良い点を教えてもらいました。忙しいながら楽しく働く先輩たちの様子や優しく丁寧に指導する当院で働いていきたいと思いました。

看護師 熊谷 葵
４階病棟　２０１５年入職
近畿大学附属福岡高等学校 卒

実習の際、自分の考えを上手に言葉で表現できない時がありました。どうすれば伝わるのか分からず、悩むこともありました。そんな時、指導する看護師さんが一緒に考えてくれたり、焦らせたり急かしたりせずに、ゆっくりと整理するようアドバイスされたことは印象深い出来事です。すごく落ち込んでいた自分の気持ちがずいぶんと軽くなりました。将来、自分が指導する立場になった時には、困ったり悩んだりする後輩を優しくサポートできる、この指導者さんのようになりたいと思いました。学生や新人に対して、優しく、しっかり理解できるよう、職場全体がサポートしてくれる魅力的な病院だと思いました。

看護師 伊丹 伸枝
５階病棟　２０１５年入職
近畿大学附属福岡高等学校 卒

私が見学に行った際に、魅力に感じたのは患者さんに対する笑顔と新人教育体制が整っていることです。患者さんに対して看護師の方々が“とびきり”の笑顔で接しているのを見て、看護師にとっても患者さんにとっても“良い病院”であることを感じました。また教育体制では、２週間の研修で接遇を始めとした社会人として必要なことを教えてくださること、病棟でもひとりひとりに合わせた教育を行なっていることを知り、安心して仕事に臨む事ができるため、ここに就職したいと決意しました。

看護師 水口 志織
４階病棟　２０１４年入職
折尾愛真高等学校 卒

私はインターンシップに参加した時に病院の説明を丁寧にして頂いたり、多忙な中、皆さんが優しく接してくれたこと、そして看護師さんと他職種の方々の仲の良さを見て、雰囲気が良い病院だと感じました。病棟で看護体験を実際に行ないました。看護師さんの患者さんに対する声かけや丁寧な援助を見ることができました。今まで実習に行ったことのある病院では、患者さんがリハビリから帰ってくる時、リハビリの方が病棟まで送っていました。当院では看護師さんがリハビリ室まで患者さんを迎えに行っていることに、とても驚き、本当に患者さんのことを第一に考えて「患者さんに寄り添う看護」を提供しているんだ！と感動し、私もここで働きたいと強く思いました。

看護師 板垣 里奈
３階病棟　２０１６年入職
宗像看護専門学校 卒

# NURSE MIND インターンシップ経験

実習では看護診断や計画、関連図を書く必要がありましたが、どう書けば良いか、どんな看護計画や診断を出せば良いか分かりませんでした。そんな私のために指導者さんは、一緒に教科書を開いて探してくれたり分かりやすく教えてくれました。技術面の指導だけでなく、患者さんを第一に考えた関わり方等たくさんのことを学びました。実習を通して笑顔が絶えない明るい病院であること、1つ1つ丁寧に熱心に分かりやすく指導してくれる職場であることを感じました。受け持ちの患者さんとコミュニケーションが上手に取れず、清潔援助をすることを患者さんから許可を貰えなかった時も一緒に患者さんと話してくれたり、「こんな言葉かけをすると良いよ」「あとは笑顔を忘れずに」等たくさんアドバイスを貰ったこと、今でもはっきり覚えています。こんな病院で働きたいと思ったところに入職できて嬉しく思っています。

看護師 佃 真奈
4階病棟　２０１６年入職
大和青藍高等学校 卒

入職したいと思ったキッカケはインターンシップでした。インターンシップでは全病棟を見学したり、先輩看護師から話を実際に聞けて“もし自分がここで働くとしたら、こんな感じかな？”とイメージすることができました。それまで、病棟ごとの違いや病院全体の雰囲気が分かりませんが、インターンシップを通して病棟ごとの役割や看護師がどのように働いているのか、他職種との連携の仕方など詳しく知ることができました。また1・2年目の看護師に先輩たちが優しく指導している姿を見て“私もここで学びたい！”と感じました。また同じ看護学校を卒業した先輩と話をしたことで、感じていた不安を解消することができました。実際に入職してもインターンシップで見た雰囲気とは変わらず、明るく楽しい職場で毎日働くことができています！

看護師 平山 栞名
3階病棟　２０１６年入職
小倉南看護専門学校 卒

私がこの病院に就職したいと思った理由は、学生時代の実習で来た際に同じ学校を卒業した先輩たちが患者さんと関わっている姿や「大丈夫？実習頑張ってね。」と優しい言葉をかけてもらい、こんな看護師になりたいと思ったからです。例えば実習の時、排泄ケアや寝衣交換がうまくできずに落ち込んだことがあります。指導者さんから具体的なアドバイスを頂き、実践していくと自分でも段々効率よく動けていることが分かりました。様子を見た指導者さんからも「前より凄く良くなったね。」と褒めて貰い、すごく嬉しかったです。先輩たちの動きを見ているとチーム間の助け合いや支援などが行き届き、スタッフ同士の思いやりもあって、とても良い病院だと思いました。

看護師 花岡 愛理紗
4階病棟　２０１７年入職
近畿大学付属福岡高等学校 卒



# NURSE MIND information

独立行政法人 地域医療機能推進機構
## 福岡ゆたか中央病院

〒８２２－０００１　福岡県直方市大字感田５２３番地５
TEL　０９４９－２６－２３１１　http://fukuoka.jcho.go.jp

| | |
|---|---|
| 院　長 | 松本　髙宏 |
| 総看護師長 | 福嶋　ひろみ |
| 病床数 | １６２床<br>（一般１３２床・結核病床３０床） |
| 職員数 | ３５１名 |
| 診療科目 | 内科・外科・乳腺外科・消化器内科・リウマチ科<br>循環器内科・呼吸器内科・呼吸器外科・心療内科<br>整形外科・眼科・肛門科・皮膚科・放射線科<br>麻酔科（柳田 憲志）・リハビリテーション科 |

# NURSE MIND access

◆お車をご利用の場合

**福岡方面**　福岡ICより約35分

福岡IC ― 九州自動車道 約２５分 ― 八幡IC ― 約１０分

**北九州方面**　小倉駅北より約32分

小倉駅北 ― 北九州都市高速 約２２分 ― 金剛 ― 約１０分

◆公共交通機関をご利用の場合

**福岡方面**　博多駅より約66分

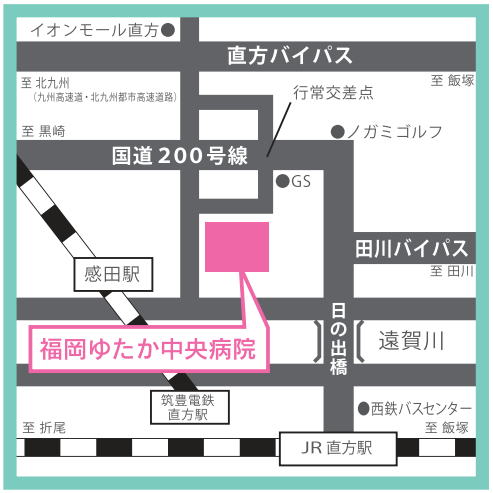
JR博多駅 ― 福北ゆたか線 約５６分 ― JR直方駅 ― 西鉄バス イオンモール直方行き 約１１分

**北九州方面**　小倉駅より約55分

JR小倉駅 ― 福北ゆたか線 約４１分 ― JR直方駅 ― 西鉄バス イオンモール直方行き 約１１分

JR小倉駅 ― 鹿児島本線 約２０分 ― 黒崎 ― 筑豊電気鉄道 約３０分 ― 感田 ― 徒歩 約５分

福岡ゆたか中央病院




直方駅方面からは国道２００号線、行常交差点を左折。また、黒崎方面からは同じく国道２００号線 行常交差点を右折。
電車・バスの詳細は、各会社のホームページを参照のこと。